

山梨県・在宅医療連携拠点事業

事業責任者：

医療法人 どちペインクリニック 理事長 土地邦彦

事業内容：

- ① 山梨県内の多職種協働の連携を進める
- ② 在宅医療への理解を深めるために市民への啓蒙活動
- ③ 山梨大学の慢性疾患診療支援システム研究会と共同で在宅療養支援システムを立ち上げる

在宅医療連携拠点事業における取り組み(1)

- 厚生労働省 在宅医療連携拠点事業説明会に出席 (2012/7/11)
- 厚生労働省 リーダーズ研修会に出席 (2012/10/13~14)
- 医療法人どちペインクリニック主催
「地域医療連携・多職種協働のための交流集会」(2012/12/16)
医療・介護関係者を中心に**212名**の参加あり。
KJ法によるグループワーク
参加対象は山梨県全域
- 県主催 薬局等勤務薬剤師に係わる研修会(‘13.03.04.)の講師

在宅医療連携拠点事業における取り組み(2)

- 山梨県内の保健所主催の地域リーダー研修会の講師とファシリテーター
 - 中北保健所 2012.11.15.
 - 中北保健所峡北支所 2013.02.06.
 - 峡南保健所 2013.02.17.
 - 富士東部保健所 2013.02.27.
 - 峡東保健所 2013.03.06.

参加者は医療、介護、行政など多職種に渡り、主催者の予想を上回る人数

KJ法によるグループワークが行われ好評であった。グループワークは職種ができるだけ片寄らないように配慮され、職種間の交流を一気に進めた。

それぞれの地域ごとの特性にあった討議がなされた。

在宅医療連携拠点事業における取り組み(3)

講演会(2013.02.24.)

みんなで作ろう、健康山梨！～安心・安全な社会を目指して～

- 1. 特別講演:地域包括ケアにおける医療情報共有化システムの構築

名古屋大学総長補佐

同大学医学部附属病院 先端医療・臨床研究支援センター教授

水野 正明先生

- 2. 特別講演:救急医療における患者情報共有化の意義

岐阜大学大学院医学系研究科救急・災害医学教授

同大学医学部附属病院高次救命治療センター長

小倉 真治先生

- 3. テーブルディスカッション

健康情報の一括管理の意義と課題 —救急医療から包括ケアまで—

水野正明、小倉真治、中嶋克仁(医師・衆議院議員)、小俣二也(山梨県医師会)、
古屋好美(中北保健所長)、土地邦彦(拠点事業所)

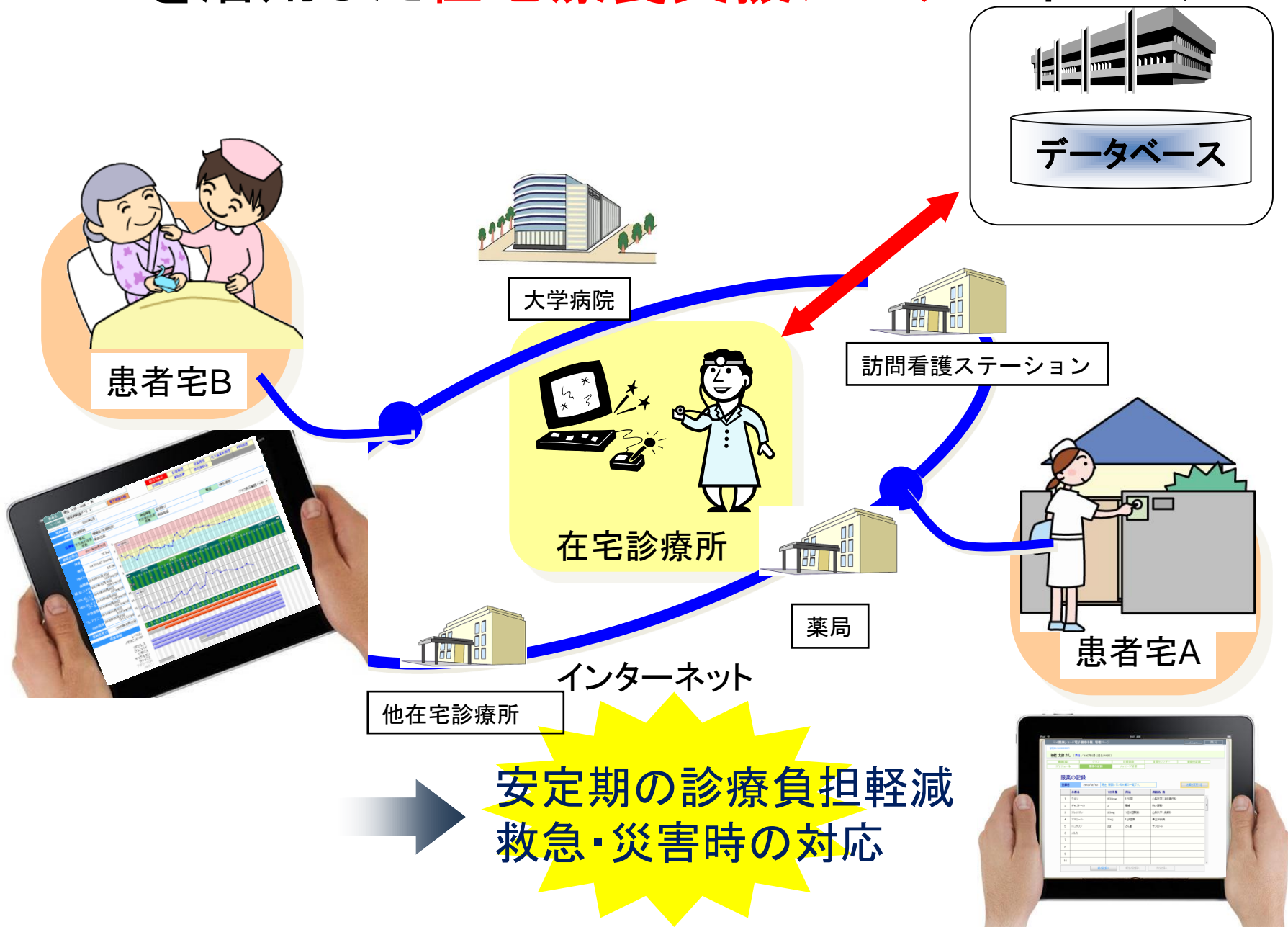
司会: 柏木賢治(山梨大学眼科准教授)・松田謙一(山梨大・救急集中治療教授)

参加者数: 150名(医師、歯科医師、薬剤師、保健師、看護師、歯科衛生士、救命救急士、
介護福祉士、介護支援専門員、行政担当者など)

地域とのふれあい、啓蒙活動

- 法人主催のお祭り「第10回DPCホスピス祭り」に、患者さん、ご家族と地域住民の1800名が参加(2012/5/20)
- 各地域の講演(幼稚園**1** 小学校**2** 中学校**3** 高校**1** 介護福祉施設**2** 社会福祉協議会**3**)を対象に講演した。
- 玉穂ふれあい診療所(有床、緩和ケア)へのボランティア活動の受入れ (幼稚園**1** 小学校**2** 中学校**3** 一般)

ITを活用した在宅療養支援システムイメージ



在宅療養支援システムの特徴

- 1個人，生涯1カルテ(複数の医療機関情報の統合)
- 患者本人が許可した医療関係者のみアクセス可能
- 医療情報の基本データ(検査データ，処方箋データ)は自動取り込み
- 医療従事者にとって：
 - 診療情報の一元化により，適切な診療を補助
 - 医療連携の強力なツール
- 患者(家族)にとって：
 - 本人の健康情報、医療機関情報のデータ閲覧
 - 病状の理解により適切な治療

在宅医療情報サマリー表示ページ

担当医	柏木 賢治	薬品-病名ナビ	患者認証	患者検索	CSV診療登録	印刷	Logout
患者名	慢性 太郎 - 45歳 - 男		総合カルテ	診察履歴	投薬履歴	処方箋薬剤履歴	病院履歴
ページ名	在宅医療関連データ	電子健康手帳	診察登録	薬剤変更	禁忌薬設定	在宅医療情報	
生年月日/番号	昭和42年6月12日生	15桁の管理No	最新情報	診療情報	医療コメント検索		
保険種類	<input type="radio"/> 医療 <input checked="" type="radio"/> 介護 <input type="radio"/> 生保 <input type="radio"/> 末期総合		要介護度	<input type="radio"/> 1 <input checked="" type="radio"/> 2 <input type="radio"/> 3 <input type="radio"/> 4 <input type="radio"/> 5			
在宅主治医	どちペインクリニック	土地 邦彦	連絡先 (1)	文字列も入力できます。			(2)
訪問看護師			連絡先 (1)	1234567890123456789012345			(2)
介護支援事務所	CANON IT Solutions Inc.		連絡先 (1)				(2)
主病名			その他病名	在宅医療でよく言う病名です。ここは患者さんも閲覧します。在宅医療でよ			
併診状況/病状説明	更新日	2012/12/11	柏木 賢治				
<input type="checkbox"/> テスト向け内容	<input type="checkbox"/> 検討中です	<input type="checkbox"/> 併診項目A	<input type="checkbox"/> 併診項目AB	<input type="checkbox"/> 併診項目ABC			
<input checked="" type="checkbox"/> 併診項目ABCD	<input type="checkbox"/> 併診項目ABCDE	<input type="checkbox"/> 併診項目ABCDEF	<input type="checkbox"/> 併診項目C	<input type="checkbox"/> 併診項目D			
<input type="checkbox"/> 併診項目E	<input type="checkbox"/> 併診項目F	<input type="checkbox"/> 併診項目G	<input type="checkbox"/> 併診項目H	<input type="checkbox"/> 併診項目I			
<input type="checkbox"/> 併診項目J	<input type="checkbox"/> 併診項目K	<input type="checkbox"/> 併診項目L	<input type="checkbox"/> 併診項目20	<input type="checkbox"/> 併診項目19			
<p>ここ病状説明です。 メモ欄としても使えますが、完全に上書き形式で保存されます。 また、履歴もありません。</p> <p>医師・看護師・薬剤師の下記専用コメント欄以外の項目は、一番下の「登録」ボタンで更新されます。</p>							
診療ポイント(主治医)	記入日			<input type="checkbox"/> 看護師確認	入力呼出		
<h2>医師、薬剤師、看護師間で情報共有と確認を行う</h2>							
医師への報告(看護師)	記入日	2012/12/07	柏木 賢治	<input checked="" type="checkbox"/> 医師確認	入力呼出		
<p>■緊急 担当医からの連絡を必要とする 在宅医療のページです。 docomo Galaxy Tab により入力可能です。 本日の訪問介護は疲れましたが、成果がありました。</p>							
薬に関する注意(薬局)	記入日	2012/12/07	柏木 賢治	<input checked="" type="checkbox"/> 医師確認	入力呼出		
<p>■チェックを入れると、この文を入力先の先頭に設置できます ■薬剤師問題?25 ABCDEFGHIJKLMNOP 最新情報の画面より入力すると、 入力呼び出しで、複数選択して登録してみました。</p>							
		登録		やり直し			

平成24年度在宅医療連携事業(山梨)のまとめと今後の展望

- 当事業所主催の全県を対象とした交流集会と、保健所単位の県内5か所で行われたリーダー研修会では、**多職種協働の具体的な動きが体験され、今後への熱い期待**が参加者より出されている。
- 県及び地区**医師会レベルで在宅医療**に取り組もうという機運が出てきた。
- 多職種で、医師どうしも連携して集団的に在宅医療に取り組む上で“**在宅療養支援システム**”はたいへん有用であり、そのシステムを作ることができた。
- **地区医師会全体で在宅医療**に取り組むこと(**在宅救急当番医制のよう**に)を展望した時、本システムはより有効に働くと思われる。
- 講演会では**在宅医療と救急医療**に医療情報の共有や日頃からの地域連携など**共通する課題**がたくさん有ることが分った。今後、行政中心に地域医療連携を進める上では重要な視点である。

在宅医療連携事業(山梨)の平成25年度以降の展望

- 平成25年度の連携拠点事業は、市町村単位に取り組み(予算配分)がなされるようだが、地域によっては保健所単位の取り組みも重要であろう。
- 県及び地区医師会レベルでの在宅医療への取り組みが重要
- 「在宅療養支援システム」の実際的な運用と手直しをさらに進める。
- 2.24の講演会では在宅医療と救急医療に医療情報の共有や日頃からの地域連携など共通する課題がたくさん有ることが分った。今後、交流会などを企画する際にはこれらに携わる人々や民生委員、地区自治会などとも協力し合うことが大切である。
- 市町村との協力共働での在宅医療システムづくりを意識的に追及する。
- その際、介護施設やヘルパーステーションも仲間に入れる。
- 地域単位の交流集会を定期的に関く。(資金的に考えると行政主体になるか?)